

## 「ならなぎ よりみちクラブ」活動報告

報告者： 玉尾 ひとみ

日時	2024 年 1 月 17 日 (水) 10 時 ~ 15 時	天候	快晴	コース名： 第 44 回よりみちクラブ	
案内団体 又は催事 名	八坂神社から清水寺を巡る			人数	大人：18 名

集 合：京阪 祇園四条駅 改札口 10 時 00 分

ガイド：ならなぎ会員 山下さん

(

行 程：京阪祇園四条駅→仲源寺(雨止地蔵・目疾地蔵)→祇園→八坂神社→祇園閣(大雲院)→  
八坂庚申堂→八坂塔(法観寺)→三寧坂(三年坂)→清水寺—解散

出席者…山下(ガイド)・寺尾・玉尾洋・堀内け・樋口・中村和・義田・上森・樋野・嶋田・服部・福島・竹山  
武田・嶋村・近野・山田勝・玉尾ひ 計 18 名…順不同・敬称略

(午前中 祇園界隈)

京阪祇園四条駅から地上に上がると鴨川の畔に出る。江戸初期、鴨川の中州で歌舞伎の先駆け出雲阿国が披露した念仏踊りが評判を呼び、次々芝居小屋が建てられた。古来より鴨川は暴れ川で、たびたび氾濫を起こしていたが、1670 年に鴨川に石堤が築かれると、中州の芝居小屋はすべて東岸に移動していった。江戸中期、祇園は市街化が進み遊興街が形成されていった。鴨川が「暴れ川」だった歴史を今に伝えるお寺、**仲源寺**のご本尊「雨止み地蔵尊」にお参りし、**祇園花街**のメインストリート花見小路通りを歩く。風情ある町並みであるがここは比較的新しい町だ。明治になるまで花街は四条通にあった。市電が通る計画とともに建仁寺の旧境内に移転したという。**八坂神社**の西楼門も道路拡張に伴い、少し北に移動している。祇園の語源ともなった八坂神社の旧称は「祇園社」、神仏分離令により、元々の地名(八坂郷)にちなんで八坂神社に改称した。本殿は神仏習合時代の名残で神殿と拝殿が仏殿のようにひとつの建物のなかになり、他に例をみない形式。拝殿？と思った建物は「舞殿」というらしい。悪王子社や美御前社など、ユニークな名前の摂社・末社をまわる。円山公園を散策。**祇園閣**は大倉財閥創始者が別荘に建設した展望台。現在は織田信長父子の菩提寺である大雲院の境内にそびえている。「ねねの道」を通り、**八坂庚申堂**に向かう。「大阪四天王寺庚申堂」、「東京入谷庚申堂(現存せず)」と並び日本三庚申の一つ。残念ながら、ならまの庚申堂は含まれていない。門をくぐるとカラフルなお手玉のようなものに目を奪われる。「くくり猿」と呼ばれるお守りで、願い事を書いて奉納するのだそう。1 個 500 円。家々の間から、法観寺五重塔、通称**八坂の塔**が見えてきた。境内は応仁の乱で焼け五重塔のみ残ったという。2 階まで上って拝観できるらしい。なるほど欄干が設えられていた。**産寧坂(さんねいざか)** —なまって三年坂ともいう— は、大変な人盛りだ。はぐれそうになりながら、坂道を登って行った。

(昼食) 産寧坂から清水坂にはいった辺り、清水寺の観光バス駐車場の近くに少しばかりのベンチが設えられている。お弁当も可能だが、大半の参加者は土産物屋 2F の食堂「清修庵」を利用した。

(午後 清水寺)

東大寺の参詣者数 300 万人に対し、**清水寺** 500 万人、今日も大変な人出である。現在の宗旨は「北法相宗」。中世、近世は奈良興福寺の末寺で、法相宗の寺であった。貫主 大西良慶和上が立宗した「北法相宗」の大本山として独立したのが昭和 40 年のことだ。寺の正門は仁王門。応仁の乱の後、室町時代後期の再建で赤門とも呼ばれている。その前の狛犬は、どちらも「阿」、口を開けている。東大寺南大門の狛犬をモデルにしたというのだが… 清水の舞台の上に立つ。足元が斜めになっていて、下を見ると、ぞくつとする。なぜここに清水寺は建てられたのか？それは、観音様は崖の上に住んでいるから、補陀洛をイメージして、崖っぷちに建てられたという。清水の舞台ができたのは平安時代の終わりごろ、ここから飛び降りた人は 236 人。うち生存者は 201 人だそう。昔は、舞台の下土がとても柔らかく、木も生い茂っていたので、助かる人が多かったと考えられているらしい。15 時きっかりに、仁王門のあたりで**解散**。

### 【所感・雑感・反省点、申し送り事項など】

好天气に恵まれ寒さもほどほど、ラッキーだった。予想していたものの、京都の人出はすごい。山下さんの巧みなリードで迷子を出さずに済んで良かった。個人的には祇園の歴史が興味深い。室町時代から地元の有力町人が力をつけ始め、祇園祭りを仕切っていたという。花街も加わって華やかに盛り立てて現在みるような雅なお祭りに進化していったのだろう。地元のパワーを感じた。

寺社の勢力は？というと、今を時めく八坂神社と清水寺だか、歴史をみると、興福寺や延暦寺の末社であったり、時の権力によって社名を変えさせられたりと、厳しい時代を耐え、乗り越えてきていることが判る。それでも一級の実力者に愛され、保護されながら今日まで法灯をつないできた。

したたかで、しなやかな京都を、今回も感じた。

八坂神社や清水寺の創建については、京都と奈良とでは歴史の見解が異なって伝えられているようだが、同じ古き都、対応意識がにじみ出ている、おもしろいと思った。

以上

